非水百花譜

第十三輯

大正
10 917
内交

始

つりふねさう（釣船草）

學　名　Impatiens Textori, Miq.

漢　名　野鳳仙花

異　名　むらさきつりふね

科　名　鳳仙花科（Balsaminaceae）

花言葉　私に觸れるな、短氣

山麓の除濕地に生ずる一年生草本にして高さ二尺許り、莖は殆る多葉にして膨厚力ある半透明の柔細胞より成り滑澤、各節は隆起して紅紫色を帶ぶ。葉は橢圓形鋭尖頭を有し緣邊に鋸齒あり、又葉面に暗紫斑あり有柄にして互生す。莖部及葉部の組織中には針晶體雲及びタンニンを含める細胞を有せり。七八月頃葉腋より毛茸を有する花梗を抽出し數花を總狀花序をなして開く。花は淡紅紫色を呈する船形花冠にして概形恰も船を釣り下げたるが如く、仍て以て本種名の起因をなせり。萼は三個なれど前方の二個は退化し後方の一個のみ著しく發達し恰も花瓣の如く、漏斗狀をなして大なる長き距を有し先端捲回す。花瓣は五個あれど上方兩側にある各二個は互に合着せるが爲三個となり三出狀をなせり。雄蕊は五個にして花瓣と互生し短濶なる花絲あり、葯は僅に內向し互に結着して僧帽狀をなし雌蕊の先端を被覆し上方に裂開す。花柱は一個にして短く、子房は五室にして各室に多數の懸垂せる胚珠あり。果實は卵形棍棒狀の蒴果にして果皮は五片より成り彈力ある裂開によりて種子を遠方に彈出す。種子は黑褐色を呈し果實中に多數藏せらる。

一種黃色なるあり。キツリフネサウと稱し概形總て前逸に同じけれど莖の帶黃綠色を呈せると、葉に暗紫斑なきと、花色の黃色なるを以て異りとなす。

備　考

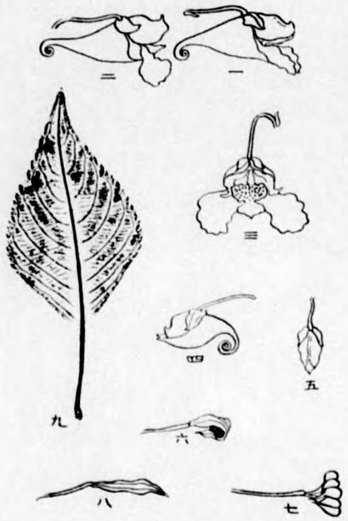
一、夏期早朝本種の葉緣を眺むれば水滴の落下せるを見るべし。是れ蒸滴と謂れるものあれど實は水孔より排出せる水滴なり。

一、學名なる Impatiens は忍耐なき意にして果實の裂開し易きに依り名附けられしなり。

一、本種は有毒なりと云ふ。

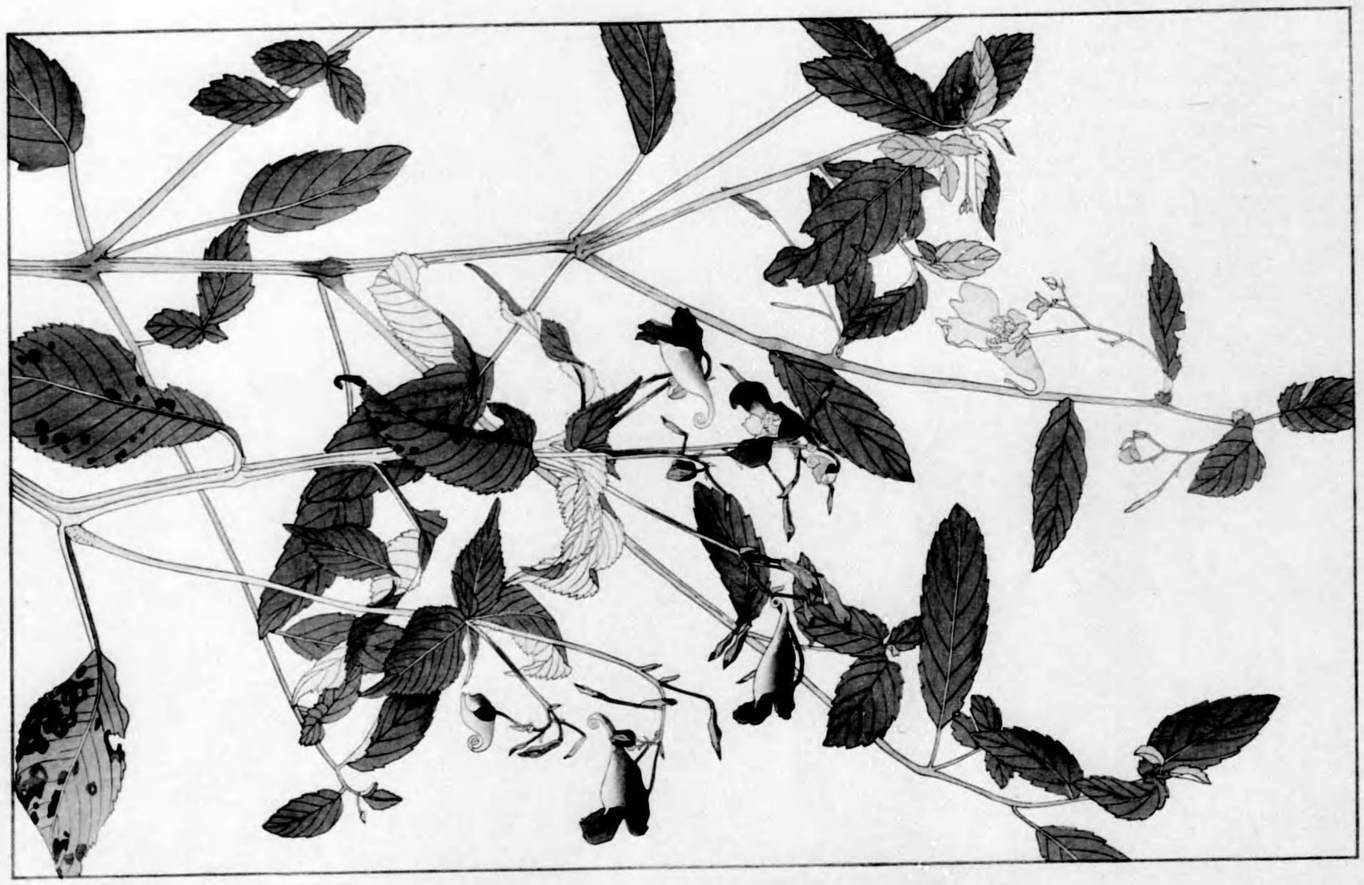
本　圖　つりふねさう（紫花）大正九年十月十日加賀那谷寺附近に於て寫生（自然大）
きつりふねさう（黃花）大正七年七月二十五日陸奧十和田湖畔子の口に於て寫生（自然大）

附　圖　（一）（二）花の側面、（三）花の正面、（四）（五）雄蕊、（六）（七）裂開せる蒴果、（八）蒴果、（九）印葉（全部自然大……紫花のもの）



非水百花譜第十三輯目次

つりふねさう（釣船草）
りんだう（龍膽）
なし（梨）
さざんくわ（山茶花）
つるれいし（蔓荔枝）



東京帝國大學附屬小石川植物園
四季花卉 藥用植物 雜草

りんだう（龍膽）

學　名　Gentiana scabra, Bunge, var. Buergeri, Maxim.

異　名　りうたん、笹龍膽、いやみぐさ、にがな、たつのいぐさ

漢　名　龍膽

科　名　龍膽科（Gentianaceae）

邦内諸州に生ずる多年生草本にして莖は直立して一二尺に達し内部に篩管層を有する兩側立維管束あり。葉は笹の葉に似て卵圓披針形にして三個の明瞭なる縱脈を有し無柄にして對生せり。夏秋の候、紫碧色の美しき花を莖頂に簇開す。萼は披針狀線形の五裂片をなし、花瓣は直立せる筒狀にして、多少深く五個に分裂し回旋せり。雄蕊は花筒に着生して其數五個多少瓣上より出で、葯は淡黃褐色にして花粉は單一且つ大なる球形又は長形をなし外皮には微細なる瘤起ありて三個の縱の裂隙を有す。紡錘狀をなせる子房は一室にして合一せる二個の心皮より成り上位にして僅に凸隆せる側膜胎座を有し、柱頭は白色を呈し二裂して反捲す。

本種は古來健胃劑として有名にして現今は龍膽丁幾、龍膽越幾斯として盛に製劑販賣せられつゝあり。又花の美しきにより觀賞用として栽培せらる。

備　考

一、本種の花は昼間は完全に開花すれど夜間は閉縮するの傾きあり。

一、笹龍膽と云へるは葉形笹に似たるにより起れるものにして、笹龍膽の紋も亦本種に起因す。

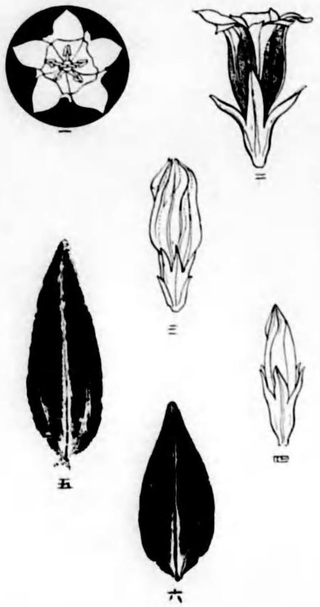
一、學名なる Gentiana はイタリア（Illyria――バルカン半島にあり）の王 Gentius の名譽の爲めに名附けられしものにして、ゲンチナス王は初めて龍膽の藥劑的價値を發見せる人なり。

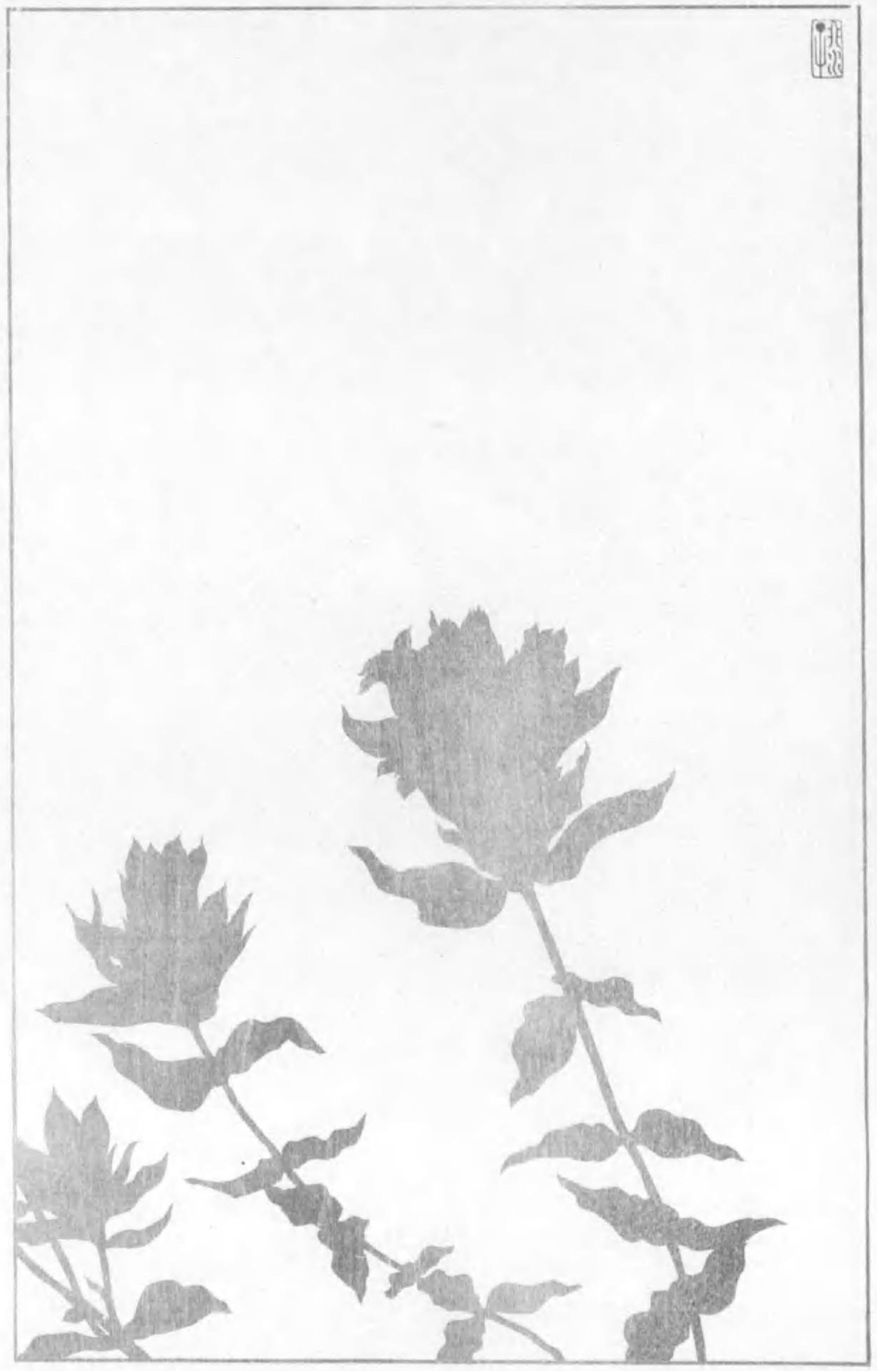
scabra は粗野を意味す

本　圖　大正九年十月十六日越後赤倉温泉場に於て寫生（自然大）

附　圖　（一）花の正面、（二）花の側面、（三）（四）蕾、（五）（六）印葉（全部自然大）

寫　眞　大正九年十月越後赤倉温泉場に於て著者撮影





なし（梨）

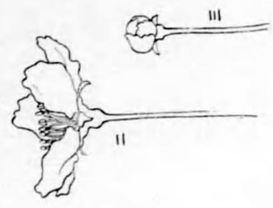
學名 Pirus sinensis, Lindle.

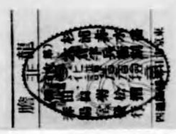
漢名 梨、玉乳

英名 Pear, Sand Pear.

科名 薔薇科(Rosaceae)

花暦 開花(果宜)　収穫(樹)





昭和昭和原産の落葉性喬木にして幹は三丈位に達す、互生する葉は楕圓形にして先端尖り、縁辺に細鋸歯を有して光澤あり、四月頃葉の萌芽と共に枝上に白色の五瓣花を繖形に開く、

明治なる花托は膨脹して果実をなすなる多種の品種に優花上其の雄蕊は多、花冠及び雄蕊を有す、雄蕊は多数にして葯は帯紫色を呈す、子房は一室にして一個の心皮は二個の胚珠を蔵し花托にはりて果はる、而して其の内部は第十に見る十個を蔵す、果は刺状の萼に至りて脱し、大形の蒴果にして外皮は黄褐色を呈し小斑點を有す、風味良好にして食用果の最上級たるものなれど其所謂固質をなし果肉と合着して一個の種果を作る、種子は黒色にして一果に多くは種果を目的として栽培せられたれど又野生のものは材を取りて建築用又は器具用として使用せらる、種果用のものは品種頗る多くして形状風味等を異にす、

西洋梨は盛唐中央及び北部に原産し果形、種利様を呈するもの、蓋様を呈するもの等あり、各々果肉に類せり、故に日本梨を特に Sand pear と称称せり、

備考

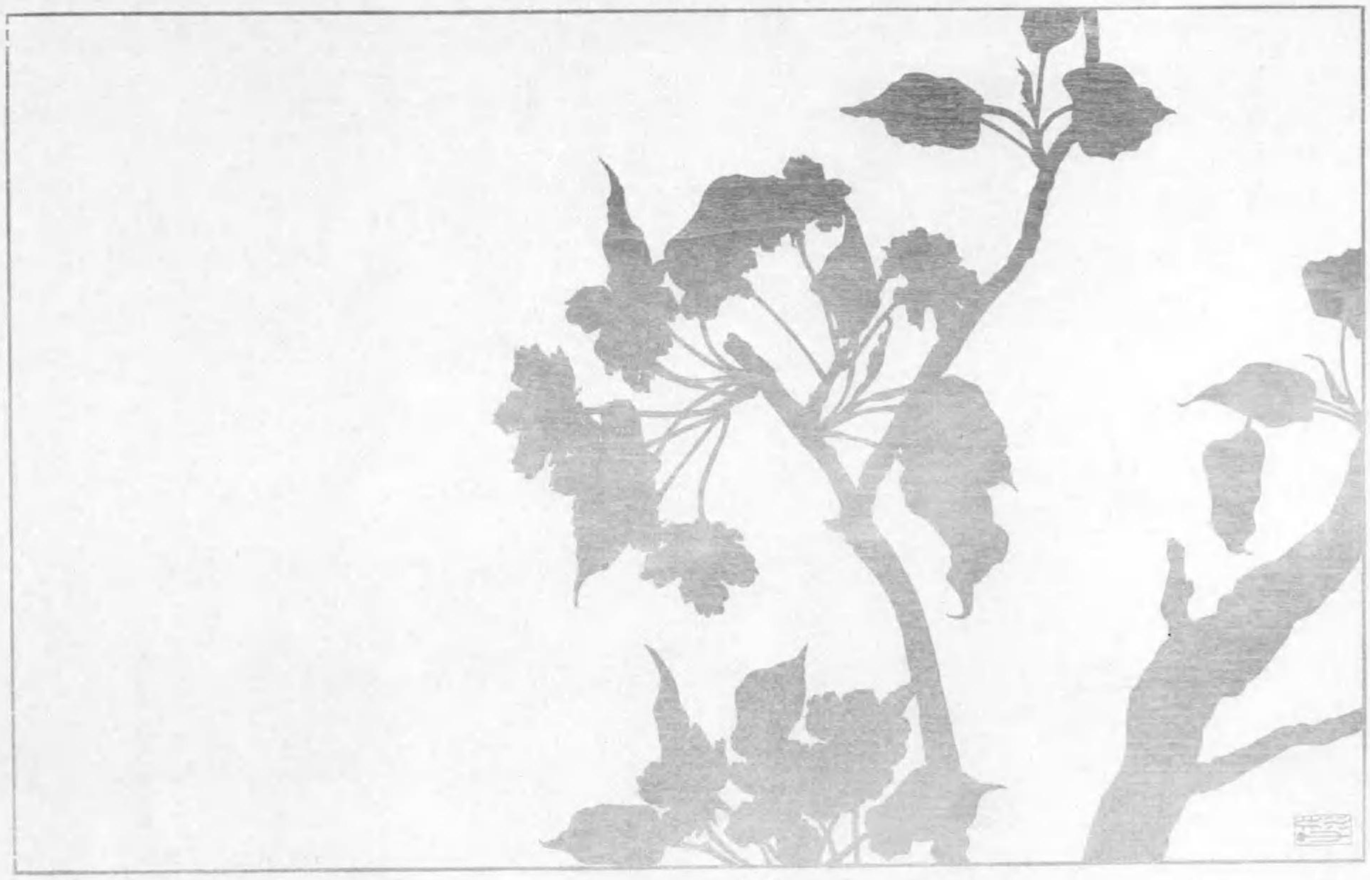
1、学名 Pirus は Pyrus と称し、ラテンの名称にして梨の意味を表す、

本図 大正七年四月中旬果実に於て写生(自然大)

附図 (一)花の正面、(二)花の側面、(三)雄蕊、(四)雌蕊(各倍自然大)

産地 (上図)大正八年五月陸中和賀郡十二湖村に於て実写(現地)

(下図)大正十年四月果実に於て高知県高岡郡(各産のもの)



さざんくわ(山茶花)

學　名　Thea sasanqua, Nois.

異　名　ひめつばき

漢　名　茶梅

科　名　山茶科 (Theaceae)

暖地の山中に生ずる常緑の灌木にして高さ五尺乃至一丈、枝葉は多く分ち、樹皮は毛茸を以て被はる。葉は互生する卵圓形にして長楕の長さ分ち、樹皮は毛茸を以て被はる。葉は互生する卵圓形にして長楕の長さ面より、多少茶質をなして尖生す。而して葉と共に分枝する頗る大なる腋窩鱗葉を有するなり。

十月頃より開花し始め、通常白色なれど紅色、淡紅、紫紅、斑紅、縞紅等及培養種頗る多し。多くは葉腋に単生すれど時に頂生し、或は二三輪集生す。花等及培養種頗る多し。多くは葉腋に単生すれど時に頂生し、或は二三輪集生す。花瓣五個、倒心臓形をなして各々分離し、雄蕊は離殺なり。萼は鱗狀性をなす。し回形又は長形、縦裂して開口す。子房は上位にして密毛を生じ、後に蒴書にして腹背裂開をなす所の蒴果をなす。裂開すれば内には三個の種子を蔵し、中軸は宿存す。

本種は花の美しさに依り主として観賞用として栽培せらるれど、又種子よりは優良なる油を搾り、材を使用する事あり。

備　考

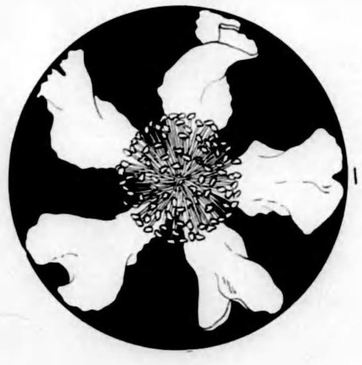
一、學名なる Thea は支那語のチャ(tcha)より來りしものにして茶を意味す、蓋し葉形茶に類するが故なり。又 sasanqua は方言を其儘學名に使用せるなり。

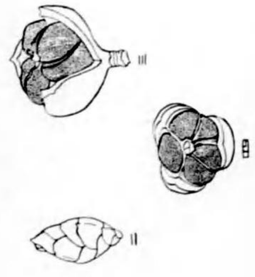
一、學名に Camellia sasanqua, Thunb. と用ゐらるるのあれど非なり。

本　圖　大正九年十一月五日東京に於て寫生(白鉄大)

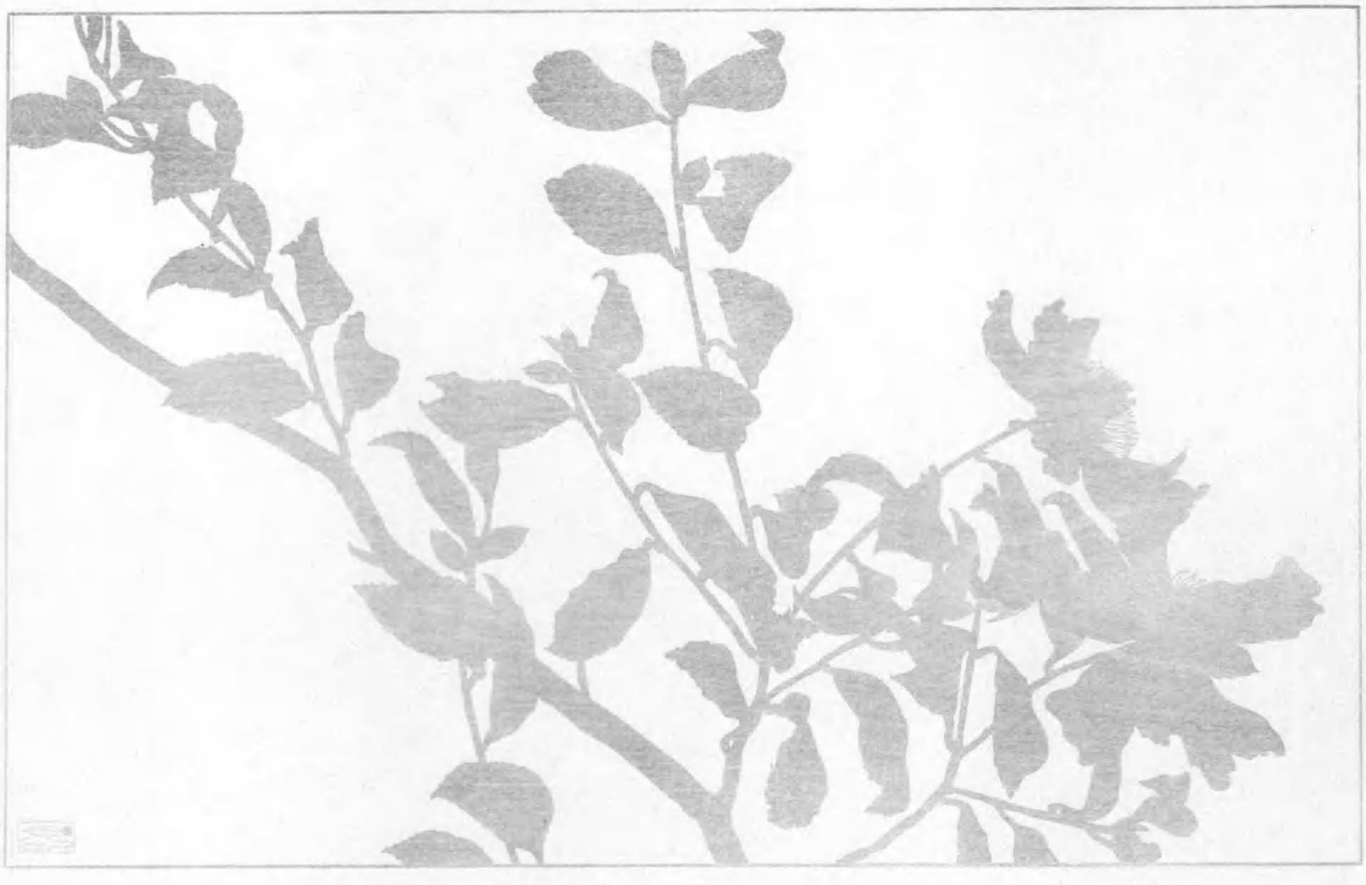
説明本圖　(一)花の正面、(二)蕚、(三)(四)裂開せる果實(各原白鉄大)

寫　眞　大正九年十一月東京に於て高橋写真部撮影





昭和四年六月廿五日



つるれいし(蔓荔枝)

學名 Momordica Charantia, L.

異名 にがうり

漢名 苦瓜 錦枝茘

科名 胡瓜科(Cucurbitaceae)

支那原產の一年生草本にして蔓莖其にタックリに類し小さく、節は細長にして兩側交互蔓巻葉を有し巻鬚を以て巻繞す。蔓巻鬚は幼稚なる時より發生し之を茂の變化したるものにして、葉は互列の位置に互生し、六七月頃より各葉腋に黃色の小花を開く。

花は雌雄異花にして各同株に生じ、其に花冠は平開狀をなし花瓣は各五、雄花は雄蕊五箇の花粉を有す。雌花は雌蕊の花柱を有す。萼及び花瓣は五個にして下部に於て互に合着し一個の共通なる基部を作り、且萼片の基部には三箇の蜜腺を有し、五個の雄蕊は基部の周圍に着生して各二個の分離せる葯を有し、葯室は蜜合して葯隔となす。子房は萼筒の周圍基部に着生して各二個の分離せる胚珠を有し、胚珠は無數にして水平なる胚嚢となす。子房は下位にして、各一室なる三個の心皮よりなる一室を有し、花柱は等長にして柱狀をなす。先端は分れて三個の柱頭となす。雄花は花柱を有せず且つ萼筒の周囲を以て覆う。雌花は花柱を有せず、花後雄花は基部周囲の管より脱落し、果の外面は多數の疣狀突起を生じ、溝を作り、果皮は淡綠色にして其の下端裂開し内部に紅色の肉を以て覆ひ果皮は丸だる狀の種子を現す。種子には胚乳を有せず、胚胚は無數にして水平なり、果皮は淡くして食す。種は丸く扁平にして周囲に白色の果肉を有し食に適す。

本種は和上の目的を以て丸年用用方としては蔬菜として多數栽培せらる。

備考

一 蔓莖は各二個づゝ、分岐する事あり。

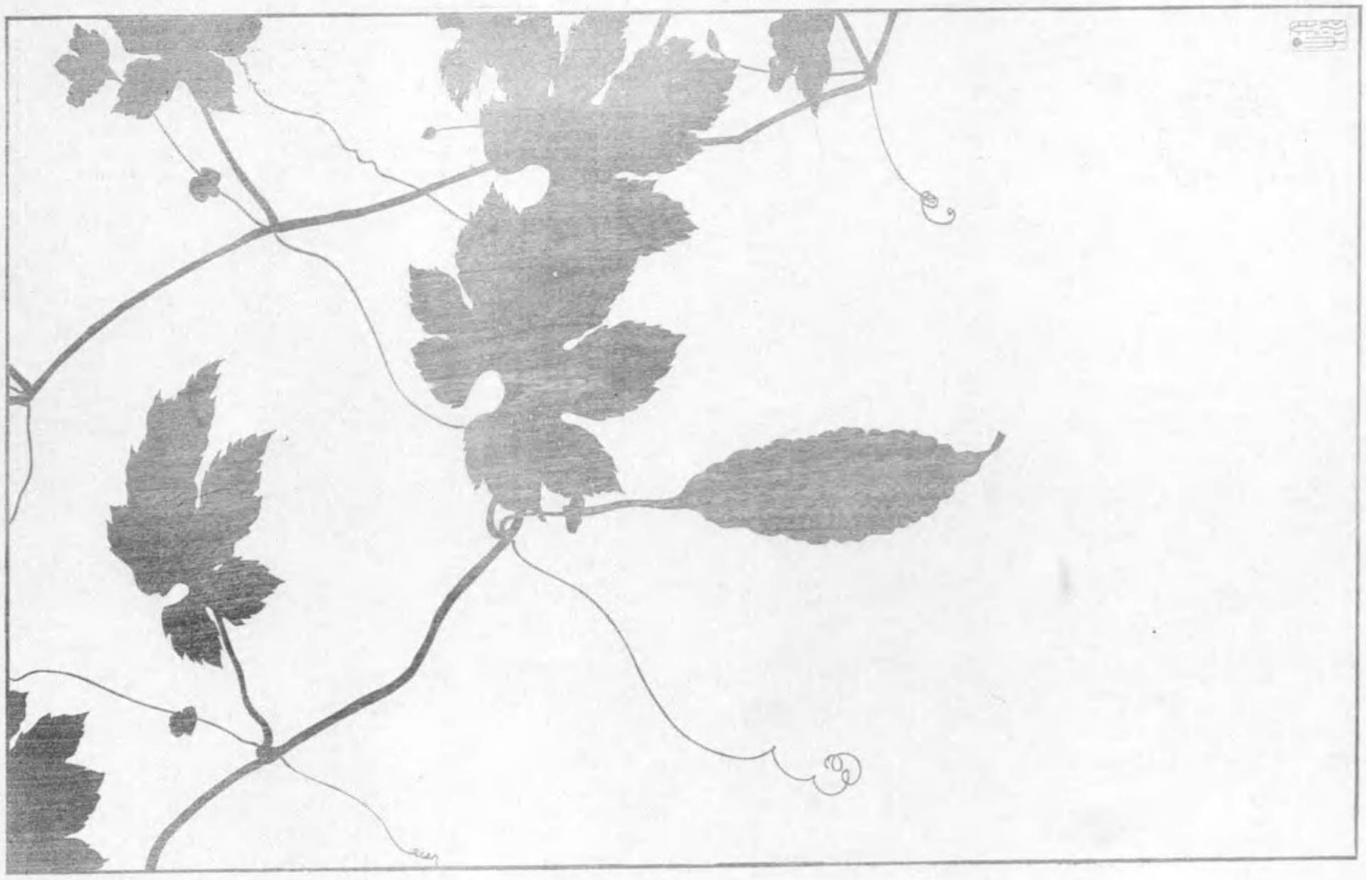
二 學名の Momordica は Momordeo 即ち咬むの意にして果實の裂開して種子を現はせる外觀は所々の細き孔を穿ちたるものなるが故なり。

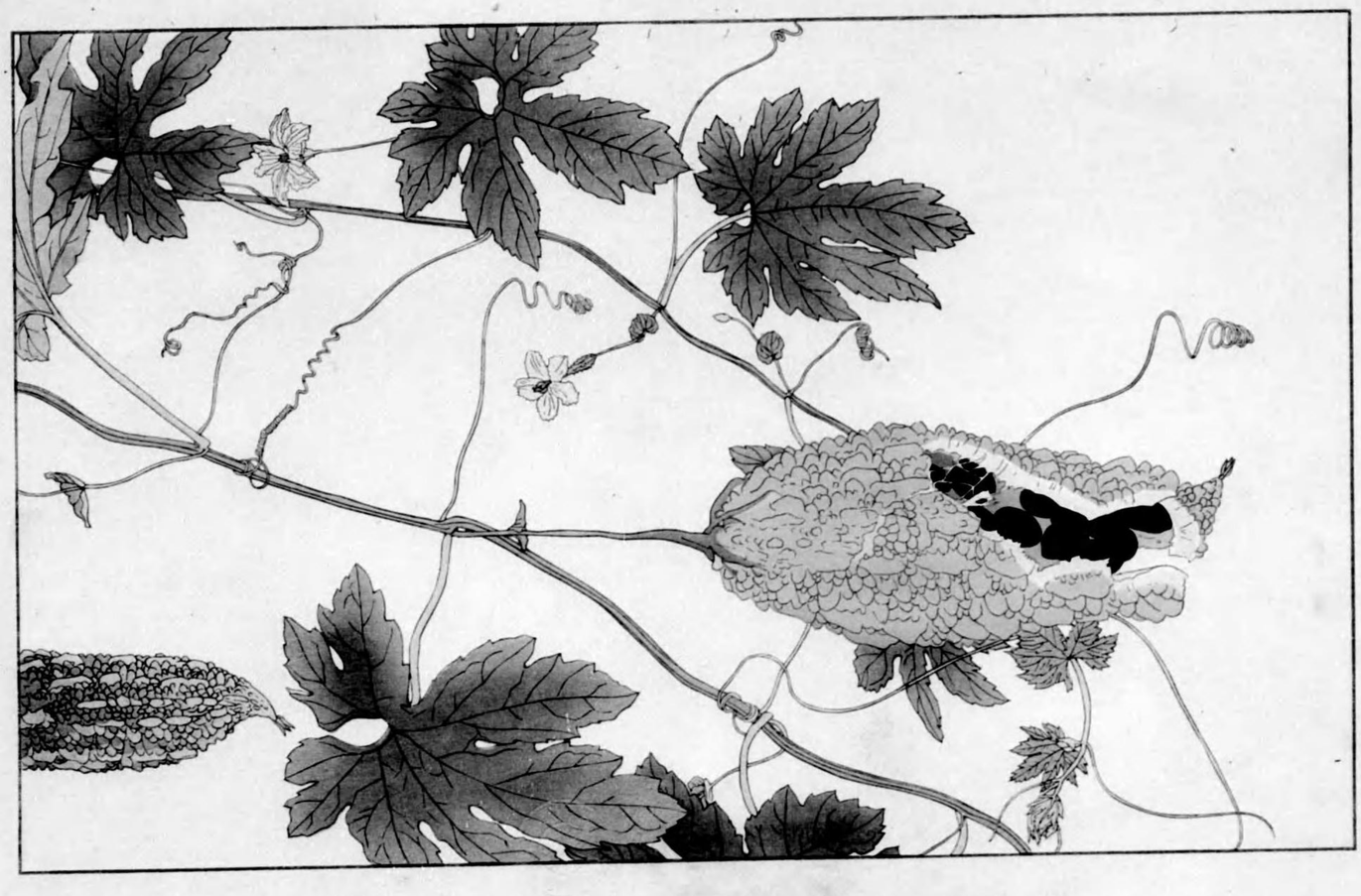
説明

圖版 大正九年九月十八日東京に於て寫生(自然大)

説明 (一)(二)雄花側面、(三)雄花正面、(四)雌花正面、(五)雌花正面、(六)葉(各原寸自然大)

寫眞 大正九年九月東京に於て寫眞撮影





蔓枝
株式會社
東京都日本橋
四國新橋

終